

5月31日

れい  
礼

はい  
拝

ま ね  
招き の こと ば  
言葉

か い か い い の  
開 会 の 祈 り

しゆいの  
主の祈り

てん われ ちち  
天にまします我らの父よ

ねが  
願わくは

みな  
御名をあげめさせたまえ

つづ  
( 続く )

みくに き  
御国を来たらせたまえ

みこころ てん  
御心の天になるごとく

ち  
地にもなさせたまえ

つづ  
( 続く )

われ にちよう かに  
我らの日用の糧を

きよう あた  
今日も与えたまえ

つづ  
( 続く )

われ つみ おか もの  
我らに罪を犯す者を

われ ゆる  
我らが赦すごとく

われ つみ ゆる  
我らの罪をも赦したまえ

つづ  
( 続く )

われ                      ころ                      あ  
我らを試みに遭わせず

あく                      すぐ                      いだ  
悪より救い出したまえ

つづ  
( 続 く )

くに ちから さか  
国と力と栄えとは

かぎ なんじ  
限りなく汝のものなればなり

アーメン

つ み こ く は く  
罪の告白の

か ん こ く  
勧告

つみ こくはく きとう  
罪の告白の祈禱

ばんぶつ つくぬし  
万物の造り主、

ひと  
すべての人の

さばぬし かみ  
裁き主であられる神よ。 (つづ  
続く)

わたし

私たちは、あなたの

せい

いまし

したが

聖なる戒めに従わず、

うしな

ひつじ

失われた羊のように

み まえ

まよ

い

御前から迷い出で、

つづ  
( 続く )

おも                      こと ば                      おこな  
思いと言葉と行いにおいて

つみ                      おか    み いか  
罪を犯し、あなたの御怒りを

まね  
招いたことを

ふか                      かな  
深く悲しんでおります。                      つづ  
( 続 く )

あわ <sup>と</sup> 憐れみに富んでおられる <sup>ちち</sup> 父よ。

おか <sup>つみ</sup> 犯した罪を憎 <sup>にく</sup> み <sup>かな</sup> 悲しむ <sup>わたし</sup> 私たちに

あわ <sup>そそ</sup> 憐れみを注いでください。 <sup>つづ</sup> ( 続 く )

<sup>しゆ</sup>  
主イエス・キリストにおいて

<sup>わたし</sup> 私たちを<sup>ゆる</sup>赦し、<sup>み</sup>御<sup>たま</sup>霊によって、

<sup>う</sup>生まれ<sup>か</sup>変わらせ、

<sup>み</sup>御<sup>な</sup>名の<sup>さか</sup>栄えのために

<sup>い</sup>生きる<sup>もの</sup>者とならせてください。( <sup>つづ</sup>続 <sup>く</sup>く )

<sup>しゆ</sup>主イエス・キリストの<sup>み</sup>御<sup>な</sup>名に

よって<sup>いの</sup>お祈りいたします。

アーメン

つ み ゆ る  
罪の赦しの

せ ん げ ん  
宣言

しへんか  
詩編歌74

ねが みて  
4. 願わくは 御手をのべ

あだ ほろ  
仇うち滅ぼしたまえ。

かみ おう  
神はいにしえより王

みすく  
御救いをなしたもう。 (1/3)

かみ おおみず わ  
5. 神は大水分かち

う くだ  
レビヤタン打ち砕きぬ。

いずみ なが ひら  
泉と流れを開き

おおかわ すな ち  
大河を砂地とす。 (2/3)

ひる よ つく ぬし  
6. 昼と夜の造り主

ひ ひかりつく  
日と光造りたもう。

ち さかい さだ  
地の境、定めたまい

なつ ふゆ わ  
夏と冬、分けたもう。 (おわり)

ぼつ かい き とう  
牧会祈禱

# こ ども せ っ き よ う 子ども説教

だ い い つ か い ほ か か み  
「第一戒：他に神はいない」

ふ く い ん し ょ し ょ う せ っ  
マタイ福音書4章1～11節

# カテキズム

<sup>とい</sup> 問62 <sup>だいいつかい</sup> 第一戒 <sup>なん</sup>は何ですか。

<sup>こたえ</sup>  
答

「あなたには、わたしをおいて  
<sup>かみ</sup>ほかに神があってはならない」です。

とい だいいつかい かみ  
問63 第一戒で、神さまは

わたし なに もと  
私 たちに何を求めておられますか。

こたえ かみ  
答 ただひとりのまことの神さまだけを、

わたし かみ  
私 たちの神さまとしてあがめ、

しんらい こころ れいはい  
信頼し、心から礼拝することを

<sup>もと</sup>  
求めておられます。

<sup>た</sup>他のどんな偶像も神さまとして

<sup>れいはい</sup>  
礼拝してはいけません。

<sup>たいせつ</sup> <sup>いまし</sup>  
これがもっとも大切な戒めです。

(おわり)

ふくいんしよ しょう  
マタイ福音書4章

10 すると、イエスは言われた。

「<sup>しりぞ</sup>退け、サタン。

『<sup>かみ</sup>あなたの神である<sup>しゅ</sup>主を<sup>おが</sup>拝み、

<sup>しゅ</sup>ただ<sup>つか</sup>主に仕えよ』

<sup>か</sup>と書いてある。」

# ハノハレルヤ

1. ハ ハ ハレルヤ

みんなですげば

ハ ハ ハレルヤ

なんだかうきうき

(つづく)

しゅ <sup>いつしよ</sup>  
主イエスと一緒に

<sup>いつしよ</sup>  
いつでも一緒に

<sup>み</sup>  
この身にあふれ

おさえられない

2. ハ ハ ハレルヤ

こころにさけばば

ハ ハ ハレルヤ

なんだかわくわく

(つづく)

しゆ ちから  
主イエスの力

おお ちから  
大きな力

み  
この身にあふれ

おさえられない

(おわり)

しんこうこくはく  
ウェストミンスター信仰告白

だい しょう しゅうきょうてきれいはい  
第21章 宗教的礼拝と

あんそくび  
安息日について

ほんせい ひかり ばんぶつ たい  
1. 本性の光は、万物に対して

し はいけん しゅけん も いつく ぶか  
支配権と主権を持ち、慈しみ深く、

ばんぶつ たい ぜん おこな  
万物に対して善を行い、それゆえに、

こころ　　つ　　せいしん　　つ　　ちから　　つ  
心　を　尽くし、精　神　を　尽くし、　力　を　尽くして、

おそ　　あい  
畏れられ・愛され・たたえられ・

よ　　もと　　しんらい　　つか  
呼び求められ・信頼され・仕えられる

かみ　　そんざい　　しめ  
べき、神が存在されることを示している。

しん　　かみ　　れいはい  
しかし、この真の神を礼拝する、

ゆいいつ かみ う い ほうほう  
唯一〔神に〕受け入れられる方法は、

かみ ご じ しん せいてい  
神御自身によって制定されており、

かみ ご じ しん けいじ  
したがって神御自身の啓示された

み ところ せいげん  
御心によって制限されているので、

かみ にんげん そうぞう くふう  
神は、人間のさまざまな想像や工夫、

あるいはサタンの示唆にしたが従って、

なに何か目に見える画像や、めみがぞう

せいしよ聖書に規定きていされていない、

た他のいかなる方法ほうほうでも、

れいはい礼拝されてはならない。

(おわり)

# エレミヤ書<sup>しよ</sup>7章<sup>しょう</sup>

1 主<sup>しゆ</sup>からエレミヤに<sup>のぞ</sup>臨んだ<sup>ことば</sup>言葉。

2 主<sup>しゆ</sup>の<sup>しんでん</sup>神殿の<sup>もん</sup>門に<sup>た</sup>立ち、この<sup>ことば</sup>言葉を

もって<sup>よ</sup>呼びかけよ。そして、<sup>い</sup>言え。

「主<sup>しゆ</sup>を<sup>れいはい</sup>礼拝するために、<sup>しんでん</sup>神殿の<sup>もん</sup>門を

はい い ひとびと  
入って行くユダの人々よ、

みな しゆ ことば き  
皆、主の言葉を聞け。

3 イスラエルの神、万軍の主はこう

い まえ みち おこな ただ  
言われる。お前たちの道と行いを正せ。

そうすれば、わたしはお前たちを  
まえ

この<sup>ところ</sup>所に<sup>す</sup>住まわせる。

4 <sup>しゆ</sup>主の<sup>しんでん</sup>神殿、<sup>しゆ</sup>主の<sup>しんでん</sup>神殿、<sup>しゆ</sup>主の<sup>しんでん</sup>神殿と

いう、むなしい<sup>ことば</sup>言葉に

<sup>よ</sup>依り<sup>たの</sup>頼んではならない。

5-6 この<sup>ところ</sup>所で、お前<sup>まえ</sup>たちの<sup>みち</sup>道と<sup>おこな</sup>行いを

ただ たが あいだ せいぎ おこな  
正し、お互いの間に正義を行い、

きりゆう がいこくじん こじ かふ しいた  
寄留の外国人、孤児、寡婦を虐げず、

むじつ ひと ち なが  
無実の人の血を流さず、

いきよう かみがみ したが  
異教の神々に従うことなく、

みずか わざわ まね  
自ら災いを招いてはならない。

7 そうすれば、わたしはお前<sup>まえ</sup>たちを

せんぞ<sup>せんぞ</sup> あた<sup>あた</sup>ち<sup>ち</sup> ところ<sup>ところ</sup>  
先祖に与えたこの地、この所に、

とこしえからとこしえまで<sup>す</sup>住まわせる。

8 しかし見<sup>み</sup>よ、お前<sup>まえ</sup>たちはこのむなしい

ことば<sup>ことば</sup> よ<sup>よ</sup> たの<sup>たの</sup>  
言葉に依り頼んでいるが、

それは救う力を持たない。

9 盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、

バアルに香をたき、知ることの

なかった異教の神々に従いながら、

10 わたしの名によって呼ばれる

しんでん き まえ た  
この神殿に来てわたしの前に立ち、

すく い  
『救われた』と言うのか。

まえ い  
お前たちはあらゆる忌むべきことを

しているではないか。

11 わたしの名によって呼ばれる

この<sup>しんでん</sup>神殿は、お<sup>まえ</sup>前たちの<sup>め</sup>目に<sup>ごうとう</sup>強盗の

<sup>そうくつ</sup>巢窟と<sup>み</sup>見えるのか。そのとおり。

わたしにも<sup>み</sup>そう見える、と<sup>しゅ</sup>主は<sup>い</sup>言われる。

12 シロのわたしの<sup>せいしよ</sup>聖所<sup>い</sup>に行ってみよ。

かつてわたしはそこにわたしの<sup>な</sup>名を

お置いたが、わが<sup>たみ</sup>民イスラエルの

<sup>あく</sup>悪のゆえに、わたしがそれを

どのようにしたかを見るがよい。

13 <sup>いま</sup>今や、<sup>まえ</sup>お前たちがこれらのことを

したから——と<sup>しゅ</sup>主は<sup>い</sup>言われる——

そしてわたしが<sup>さき</sup>先に<sup>く</sup>繰り返<sup>かえ</sup>し<sup>かた</sup>語ったのに、

その<sup>こと</sup>言葉<sup>ば</sup>に<sup>したが</sup>従<sup>よ</sup>わず、呼び<sup>よ</sup>かけたのに

<sup>こた</sup>答<sup>え</sup>えなかつたから、

14 わたしの<sup>な</sup>名<sup>よ</sup>によって呼ばれ、

<sup>まえ</sup>お前<sup>よ</sup>たちが<sup>たの</sup>依り頼<sup>しんでん</sup>んでいるこの<sup>しんでん</sup>神殿に、

そしてお前<sup>まえ</sup>たちと先祖<sup>せんぞ</sup>に与<sup>あた</sup>えた

この所<sup>ところ</sup>に對<sup>たい</sup>して、

わたしはシロにしたようにする。

15 わたしは、お前<sup>まえ</sup>たちの兄<sup>きょうだい</sup>弟<sup>だい</sup>である、

エフライムの子孫<sup>しそん</sup>をすべて

な す まえ  
投げ捨てたように、お前たちを

まえ な す  
わたしの前から投げ捨てる。」

16 あなたはこの民のために祈っては

かれ なげ  
ならない。彼らのために嘆きと

いの こえ わずら  
祈りの声をあげてわたしを煩わすな。

わたしはあなたに<sup>みみ</sup>耳を<sup>かたむ</sup>傾けない。

17 ユダの<sup>まちまち</sup>町々、エルサレムの<sup>ちまた</sup>巷で

<sup>かれ</sup>彼らがどのようなことをしているか、

あなたには<sup>み</sup>見えないのか。

18 <sup>こ</sup>子らは<sup>まき</sup>薪を<sup>あつ</sup>集め、<sup>ちち</sup>父は<sup>ひ</sup>火を<sup>も</sup>燃やし、

おんな こな ね てん じよおう  
女 たちは粉を練り、天の女王のために

ささ もの か し つく い きよう かみがみ  
献げ物の菓子を作り、異教の神々に

ささ もの しゆ そそ  
献げ物のぶどう酒を注いで、

いか  
わたしを怒らせている。

かれ  
19 彼らはわたしを怒らせているのか

——と主は言われる——

むしろ、<sup>みずか</sup>自らの<sup>はじ</sup>恥によって

<sup>みずか</sup>自らを<sup>いか</sup>怒らせているのではないか。

20 それゆえ、<sup>おも</sup>主なる<sup>かみ</sup>神は<sup>い</sup>こう言われる。

<sup>み</sup>見よ、わたしの<sup>いか</sup>怒りと

いきどお <sup>ところ</sup> <sup>にんげん</sup> <sup>かちく</sup>  
憤りが、この所で、人間、家畜、

<sup>の</sup> <sup>き</sup> <sup>ち</sup> <sup>みの</sup> <sup>そそ</sup>  
野の木、地の実りに注がれる。

<sup>も</sup> <sup>あ</sup> <sup>き</sup>  
それは燃え上がり、消えることはない。

21 <sup>かみ</sup> <sup>まんぐん</sup> <sup>しゅ</sup>  
イスラエルの神、万軍の主は

<sup>い</sup>  
こう言われる。

まえ や つ ささ もの にく  
お前たちの焼き尽くす献げ物の肉を、  
にく くわ た  
いけにえの肉に加えて食べるがよい。

22 わたしはおまえ せんぞ  
わたしはお前たちの先祖を

ち みちび だ  
エジプトの地から導き出したとき、

や つ ささ もの  
わたしは焼き尽くす献げ物や

いけにえについて、

<sup>かた</sup>語ったことも<sup>めい</sup>命じたこともない。

23 むしろ、わたしは<sup>つぎ</sup>次のことを<sup>かれ</sup>彼らに

<sup>めい</sup>命じた。「わたしの<sup>こえ</sup>声に<sup>き</sup>聞き<sup>したが</sup>従え。

そうすれば、わたしはあなたたちの

かみ  
神となり、あなたたちはわたしの民となる。<sup>たみ</sup>

わたしが命じる道にのみ歩むならば、<sup>めい</sup> <sup>みち</sup> <sup>あゆ</sup>

あなたたちは さいわ <sup>え</sup> しいを得る。」

24 <sup>かれ</sup> <sup>き</sup> <sup>したが</sup> しかし、彼らは聞き従わず、

<sup>みみ</sup> <sup>かたむ</sup> <sup>かれ</sup> 耳を傾けず、彼らのかたくなで

わる ところ したが あゆ  
悪い心のたくらみに従って歩み、

わたしに背を向け、顔を向けなかった。

25 お前たちの先祖がエジプトの地から

で 出たその日から、今日に至るまで、

わたしの僕である預言者らを、

つね く かけ まえ つか  
常に繰り返してお前たちに遣わした。

26 それでも、わたしに聞き従わず、

みみ かたむ  
耳を傾けず、かえって、うなじを固くし、

せんぞ わるもの  
先祖よりも悪い者となった。

27 あなたが彼らにこれらすべての

ことば <sup>かた</sup> 言葉を <sup>かれ</sup> 語っても、彼らはあなたに

<sup>き</sup> 聞き <sup>したが</sup> 従わず、<sup>よ</sup> 呼びかけても

<sup>こた</sup> 答えないであろう。

28 それゆえあなたは <sup>かれ</sup> 彼らに <sup>い</sup> 言うがよい。

「これは、その <sup>かみ</sup> 神、<sup>しゆ</sup> 主の <sup>こえ</sup> 声に <sup>き</sup> 聞き <sup>したが</sup> 従わず、

こ 懲らしめを受け入れず、その口から

しんじつ うしな た たみ  
真実が失われ、断たれている民だ。」

29 「お前の長い髪を切り、それを捨てよ。

はだか やまやま あいか  
裸の山々で哀歌をうたえ。

しゅ いか せ だい  
主を怒らせたこの世代を

しゆ しりぞ み す  
主は退け、見捨てられた。」

30 まことに、ユダの人々はわたしの

め まえ あく い しゆ い  
目の前で悪を行った、と主は言われる。

な よ  
わたしの名によって呼ばれる

しんでん かれ にく もの  
この神殿に、彼らは憎むべき物を

お 置おいてこれを汚けがした。

31 彼かれらはベン・ヒノムの谷たにに

トフェトの聖せいなる高台たかだいを築きずいて息子むすこ、

娘むすめを火ひで焼やいた。このようなことを

わたしは命めいじたこともなく、

こころ おも う  
心に思い浮かべたこともない。

32 それゆえ、見よ、もはやトフトとかが

ベン・ヒノムの谷とか呼ばれることなく、

さつりく たに よ ひ く  
殺戮の谷と呼ばれる日が来る、

しゅ い  
と主は言われる。

そのとき、人々はもはや余地を

のこ残さぬまで、トフェトに人を葬る。

33 この民の死体は空の鳥、野の獣の

えじき餌食となる。それを追い払う者もない。

34 わたしはユダの町々とエルサレムの

ちまた よろこ こえ いわ こえ  
巷から、喜びの声と祝いの声、

はなむこ こえ はなよめ こえ た  
花婿の声と花嫁の声を絶つ。

ち はいきよ  
この地は廃虚となる。

(おわり)

# 501. いのちのみことば

いのち みことば  
1. 生命の御言葉 たえにくすし

み みかみ しめ  
見えざる御神の むねを示し

つかえまつる みち 道をおしう。

(つづく)

(おりかえし)

いのち みことば  
生命の御言葉

たえなるかな

いのち みことば  
生命の御言葉

くすしきかな。

(1/3)

## 2. <sup>しゅ</sup>主イエスの<sup>みことば</sup>御言葉

いとしたわし

あまねくひびきて <sup>よ</sup>世のちまたに

<sup>なや</sup>悩む<sup>こ</sup>子らを <sup>あめ</sup>天に<sup>まね</sup>招く

(つづく)

(おりにかえし)

いのち みことば  
生命の御言葉

たえなるかな

いのち みことば  
生命の御言葉

くすしきかな。

(2/3)

3. うれしきおとずれ たえず<sup>き</sup>聞こえ

ゆるしと<sup>やわ</sup>和らぎ <sup>たま</sup>給<sup>かみ</sup>う神の

<sup>ふか</sup>深<sup>めぐ</sup>き恵み <sup>よ</sup>世<sup>あら</sup>に現わる

(つづく)

(おりがえし)

いのち みことば  
生命の御言葉

たえなるかな

いのち みことば  
生命の御言葉

くすしきかな。

アーメン

せつ  
説

きょう  
教

しゅ みこえ き したが  
「主の御声に聞き従え！」

ゆきひろぼく し  
辻 幸宏牧師

# 礼拝に出席する

- ・健康を整え、時間を割き、準備する
  - ・イスラエルの人々も同様
- ・主は「あなたたちは本当に主なる神を礼拝しているか？」と問うている

# 主なる神を礼拝するとは

- ① 神殿礼拝
- ② 生贄を献げる
- ③ 安息日厳守

が求められる

# 主なる神を礼拝するとは

## ① 神殿礼拝

主なる神の御前に遜ること

## ② 生贄を献げる

神による罪の贖いに感謝すること

## ③ 安息日厳守

安息日が与えられた喜びに満たされること

主なる神との

関係を顧みること

# その上で

- ・ 神の啓示である御言葉に聴くこと

→ 歩むべき道と行いを正すこと

- ・ 神の愛の言葉・十戒

# イスラエルの礼拝

- 「主の神殿、主の神殿、主の神殿」
- 「神殿で礼拝さえしていれば良い」のか？
  - 形だけで、中身が伴わなければ、  
神が不在となる

# その結果

→ 御言葉に聴かなくなる

→ 神礼拝の本質が失われる

・主なる神への畏れがなくなる

# 主イエスの時代

・安息日厳守 → 人を裁く道具

・ルカ福音書6:1~5

「人の子は安息日の主である」

・十戒は、神の愛の言葉

安息日でも空腹を満たすことは許される

# 十戒の第四戒

- 「安息日を心に留め、これを聖別せよ」  
(出エジプト20:8)
- 安息日(主の日)の朝  
感謝と喜び・出席できなくても
- 「日曜日だから」機械的な判断はダメ!

# 寄留の外国人・孤児・寡婦

- ・集合体ではいけない
- ・名前を挙げ、一人ひとりを見よう
- ・具体的な苦しみを確認しよう

# そのためには……

- 「平和」はゴールだが、抽象的
- 隣人：共に生きる家族・友人・教会員に  
心を向けること
- 日頃の交わり、声を聞くことが大切
- 社会における平和を築く第一歩

# 隣人愛に具体性がないと……

- ・「盗み、殺し、姦淫、……」

→ 隣人の痛みを理解できない

# 御言葉に聞き従わない

- ・主なる神が不在
- ・形を整えることを行う
- ・自己中心・罪に抵抗感がない
  - 主なる神による裁き

# 主の御言葉に聴くこと

- ・主なる神を知る
- ・主の御前に遜りと罪の赦しの感謝
- ・隣人の苦しみを知り、寄り添う

# わたしが命じる道、幸いを得る

- **恵みの契約** (創世記12:1～3、15:5～6)

- 恵みの契約は、イスラエルに、  
そして私たちに受け継がれている

- 罪を悔い改め、主を信じるとき  
主は救いへと向かい入れて下さる

# 主イエス

- 「わたしは道であり……」(ヨハネ14:6~7)
  - 十字架：罪の贖い、救いの完成
- 主イエスを信じ、御言葉に聴く者に、  
神の国の祝福は約束されている

われ しゆ  
6. 我ら主をたたえまし

われ しゆ たた  
1. 我ら主を讃えまし

みな  
きよき御名あがめばや、

く ひ うた  
来る日ごと ほめ歌わん

かみ おう  
神にまし 王にます

しゆ  
主のみいつ たぐいなし

## 2. 世は世へと歌い継ぎ

よろこ おそ も  
喜びと畏れ持て、

しゆ わざ っ  
主のくしき業を告げ

いっく し  
慈しみ知れるもの

み さか たた  
御栄えを ほめ讃う

みめぐ かぎ  
3. 御恵みは限りなく

しゅ たよ こ  
主に頼る子らにあり、

み いか しの  
御怒りを忍びつつ、

あわ  
憐れみをたれたもう

しゅ あい しゅ つか  
主を愛し、主に仕えん。アーメン

けん  
献

きん  
金

かんしや ささ もの  
感謝の献げ物

にんい きようせい  
任意であり、強制ではありません

ほう  
報

こく  
告

# 本日の予定

- 教会学校（礼拝後）
- 東部中会連合長老会・執事会合同例会  
pm2:30～5:00 東京恩寵教会・Zoom
- 夕拝 休会

# 今週の予定

- 祈りと学びの会（祈祷会）  
午前・夜 6月3日(水) 哀歌4章
- 会堂掃除 第1週担当者

# 次主日の予定

聖書協会共同訳聖書・使用開始

- **礼拝** am10:30 ※聖餐式執行  
司式・説教：辻 幸宏牧師 奏楽：鈴木美登里姉  
「かたくなに生きる者」
- 定期小会・合同役員会 (pm1:30)
- **夕拝** (pm5:00) 「福音の希望に生きよう」

# 541. しょう 頌 えい 栄

ちち 父、みこ 御子、みたまの

おおみかみに、

ときわにたえせず、

みさかえあれ、みさかえあれ

アーメン

しゅく  
祝

ふく  
福

ア-メン さんしょう 三唱